

主権者及び消費者の育成に係る指導の充実に関する実践研究
令和 6 年度実施報告（概要）

団体名： 国立大学法人筑波大学

1. 類型

【類型 I ①】主権者に必要な資質・能力の育成に係る小学校又は中学校における実践
（ア. 社会科における指導）

【類型 I ①】主権者に必要な資質・能力の育成に係る小学校又は中学校における実践
（イ. 特別活動における指導）

2. 実践校について

【類型 I ①】主権者に必要な資質・能力の育成に係る小学校又は中学校における実践
（ア. 社会科における指導）

実践校名	(つくばだいがく ふぞく ちゅうがっこう) 筑波大学附属中学校	
全校児童・生徒数	実践研究の対象	
611人	(学年) 3学年	(児童・生徒数) 204人

【類型 I ①】主権者に必要な資質・能力の育成に係る小学校又は中学校における実践
（イ. 特別活動における指導）

実践校名	(つくばだいがく ふぞく ちゅうがっこう) 筑波大学附属中学校	
全校児童・生徒数	実践研究の対象	
611人	(学年) 全校	(児童・生徒数)

3. 実践校における実践内容

(1) 概要

社会科・地理的分野の学習と生徒会活動を中心とした特別活動の取組を有機的に関連させ、相乗効果的に主権者として必要な資質・能力の育成を図る。さらに、他地域の学校と連携し、ICTも活用しながら、地域的特色が異なる生徒間で意見交換や交流を行う。

(2) 2年目(令和6年度)の実践内容

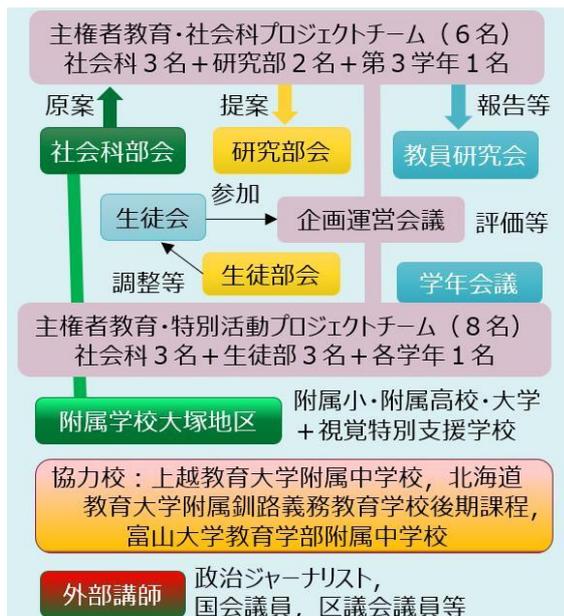
社会科における指導では、主権及び主権者の意味や意義を理解し、地理的分野と公民的分野で学習する「見方・考え方」の違いを考えるための学習、日本の地域的特色と地域区分に関する学習、日本の諸地域と地域の在り方(構想・提案)を有機的に関連させた学習の成果を踏まえた公民的分野の学習、よりよい世界と社会を創造するための政策の構想・提案を行う学習、政治や選挙への関心を高めるための講演会・政治家を招いての討論会、仮想政党(政治団体)づくりと仮想飯田市(長野県)長模擬選挙などを実施した。

特別活動における指導では、生徒会各団体による調査・研究活動(会計予算審議係による国の予算配分と生徒会予算配分の考え方の違い、規則制度審議委員会による制服の規則の見直し、運動会準備小委員会による新競技の導入の検討と実施、交流会準備小委員会による附属視覚特別支援学校との交流行事のあり方の検討・実施など)、異学年交流による運動会のふり返り、主体的に学習や行事に取り組む条件や効果を生徒が考え、研究協議会全体会における発表・質疑応答などを実施した。

4. 実践校における実施体制

社会科における指導は、社会科教員3名及び研究部教員2名、第3学年から1名の合計6名によるプロジェクトチームを中心に活動を行い、週1回の社会科部会及び研究部会、月2回の教員研究会、年3回の四校研(筑波大学及び附属小中高の研究会)、年4回の企画運営会議(特別活動の取組のプロジェクトチームと合同で実施)を通して実施上の課題や新たな提案を検討、生徒の学習状況の評価等を行った。

特別活動における指導は、社会科教員3名、生徒部教員3名によるプロジェクトチームを中心に活動を行い、週1回の研究部会及び生徒部会、各学年の担任会、月2回の教員研究会、年3回の企画運営会議(社会科の取組のプロジェクトチームと合同で実施)を通して実施上の課題や新たな提案を検討、生徒の活動状況の評価等を行った。



▲社会科の研究組織



▲特別活動の研究組織

企画運営会議には、生徒会団体の代表生徒1名が参加予定だったが、会議の時程を調整することが困難であったため、生徒部担当教員が教員側の会議と生徒会の連絡調整を行った。教員は Teams を利用して、生徒はロイロノートを利用して、情報の共有や意見交換を行った。

社会科の取組との相乗効果を高めるために、交流授業・研究を行う各地域の中学校(上越教育大学附属中学校、北海道教育大学附属釧路義務教育学校後期課程、富山大学教育学部附属中学校)の生徒会との情報交換を行い、月1回のオンライン会議、年3回の合同会議で意見交換等を行った。

5. 各研究テーマについて、2年目の実践を踏まえた成果等

【類型Ⅰ①】主権者に必要な資質・能力の育成に係る小学校又は中学校における実践 (ア. 社会科における指導)

＜児童生徒が社会的事象に興味・関心を持ち、自分事として捉えながら、児童生徒に考えさせる教育活動を行うため、どのような指導上の工夫が考えられるか。＞

- 教科書を主たる教材として学習し、身に付けた社会的な見方・考え方を活用する場面として、新聞などをもとに実社会で起こっている諸課題についての知識や理解を広げることが効果的であることがわかった。
- 事実をもとに多面的・多角的に考察し、公正に判断する力を養うために、協働的に追究し、根拠を持って主張したり、合意形成したりする学習は、新聞の電子版や意見交換ができるツールなど、ICT を活用して行うことがより効果的であることがわかった。
- 地方の課題を東京大都市圏に住む生徒が考える際に、同世代の地方の中学生が地域の課題をどのように捉えているのかを知ることは大きな意義があった。主権者に必要な資質・能力には、地域社会の担い手としてだけでなく、日本全体を視野によりよい社会を形成したり創造したりする参画意欲が求められること、そのためには同じ地域で生活をともにしている生徒間だけでなく、自然環境や社会環境が異なる地域の生徒との交流や意見交換を行い、広い視野から社会のあり方を考える学習が効果的であることがわかった。
- 政治についての関心を高める上で、様々な意見の対立がある複数の社会的事象について、生徒同士の賛成や反対の立場が事象ごとに異なっている実態を可視化することで、政党や政治団体の役割と課題についての理解を深めることができた。そして、実際に仮想政党(政治団体)をつくり、どの政党になぜ加入するのかを考えたり、組織内での意見調整をどう図っていくのかを体験したりすることによって、議論を大切にしたり少数意見を尊重したりする態度を身に付けさせることができた。

＜発達の段階に応じた情報活用能力の育成(特に、社会的事象に関する情報を収集し、その情報を公正に判断し、自分の意見をもつこと)に関して、どのような指導上の工夫が考えられるか。＞

- 個人端末を利用した新聞の電子版の活用が効果的であることがわかった。調べたいテーマに基づいて記事を検索したり、関連がありそうな記事を保存したりすることができ、過去と現在、異なる地域間の出来事を比較することもできるからである。記事検索を行うとき

に、テーマの後に「解決」という言葉を加えることで、諸課題の解決に必要なヒントを得ることが可能となることもわかった。

- 将来を見通したよりよい社会の担い手を育成するために、現在の地域的特色や過去の歴史的背景だけでなく、「地域経済分析システム(RESAS)」等を活用して人口動態の未来予測を踏まえて持続可能な社会の在り方を考察させることが重要であることがわかった。
- 主体的に学習に取り組む意欲を高めるという意味でも、生徒の意見や感想を集約・共有するオンラインツールの活用が効果的であることがわかった。異なる学校の生徒や URL を届けた関係者からのコメントも得ることができ、関係者のインタラクションを容易に実現することができた。
- すべての教科で利用している ICT ツールを用いることで、仮想選挙の選挙公報、選挙ポスター、仮想政党のマニフェストなどを容易に作成することができ、研究授業の参観者にオンラインツールを活用して模擬投票をしてもらうことにより、選挙権という投票する側の意義だけではなく、投票される側という被選挙権の意義についても実感を伴って理解し、政治に対する興味・関心を高めることができた。

<教科等横断的な学習を充実するために、教育課程の編成に当たってどのような工夫が考えられるか。>

- 教科横断的な学習課題が設定できたとしても、教科で扱うべき内容が多すぎるため、実施が困難であることであることが教育課程の編成上の課題である。主権者としての資質・能力を育成する上でも、教科横断的な学習を充実させる意義は大きいので、教科の学習時間のうち、2割程度を教科等横断的な学習に当てられるように、目標の達成度を考慮しながら内容の精選及び指導の重点化を行う工夫が考えられる。
- 地理的分野と公民的分野の学習が、社会科という一つの教科の目標を達成するためにあるものだとしたら、地理的分野と公民的分野の見方・考え方を総合的に働かせる学習を充実させる必要がある。中学校でも分野別の目標が設定され、高等学校では別の教科となり、学習の関連付けや接続という点で課題がある地理的分野と公民的分野の学習を、教科等横断的な学習として成立させるのに最も適した単元が「C 日本の様々な地域 (4)地域の在り方」の学習であり、令和5・6年度を通じた実践によって、その成果を示すことができた。

【類型Ⅰ①】主権者に必要な資質・能力の育成に係る小学校又は中学校における実践
(イ. 特別活動における指導)

<児童生徒が学校生活の充実と向上に主体的に参画することを促すため、どのような指導上の工夫が考えられるか。>

- 学校生活全般に対する自治意識が常に求められる環境の整備が重要である。学級を単位とした学習や生活が中心となるため、授業時間以外の生活も自らどのように主体的に過ごせるかが求められるが、学級委員のように半年間固定の役割の生徒だけでなく、週ごとに担当する学級週番を中心とした自治活動を行うことが効果的であることが他校との比較や意見交換でわかった。
- 教育課程上は正式に位置づけられていない「朝の会」「終礼(帰りの会)」「学級週番の引

き継ぎ」「全校週番による学級週番への指導」の時間をより充実させるために、メモや記録をデジタル化し、データ分析が容易になるように工夫する改善が考えられる。

- 学校における自治的な活動は、下級生が上級生から学べることも多い。「生徒が生徒を育てる学校」であるというモットーを入学時から生徒が自覚し、学年が上がるごとに自らの学校生活における上級生としての役割を強く意識しながら実践できる環境が、生徒が学校生活の充実と向上に主体的に参画できる条件になっていると考えられる。
- 主体的に学習や行事に取り組む効果やその効果を最大限に発揮できる条件を生徒に考えさせることによって、自ら学校生活の充実と向上に参画することの意味や意義を理解することができ、より主体性を発揮しやすくすることができた。

<全ての教師が趣旨を理解し協力して関わることのできる、学校全体としての取組とするための校内体制構築に関して、どのような工夫が考えられるか。>

- 学級における自治的活動が学級週番を中心に行われるのに対して、学校全体の自治活動は、1月から3月は2年生、4月から12月は3年生による全校週番(毎週6人ずつ入れ替わる)を中心に行い、その監督・指導を教員(毎週2人ずつ入れ替わる)が交代で行うことで、生徒を含め全校が一体として自治的活動に関わる態勢を整えることができる。
- 週末に次週の担当教員、担当生徒との間で引き継ぎを行い、課題の解決方法の検討や新たな目標を設定する機会とし、1週間単位のPDCAサイクルを繰り返すことが効果的である。
- 全校集会を教員主導ではなく、全校週番を中心として運営することで、全校生徒が毎週の課題を共有し、学校生活の充実と向上に主体的に参画する意識を高めることができる。
- 制服の扱いや全校での清掃活動の見直しについて、教員の分掌組織だけで決定するのではなく、生徒会組織による提案をもとに教員の会議で検討したり、生徒会の代表者が教員と協議できる場を設けたりすることで、「学校全体」と言うときには生徒も含み、むしろ生徒を主体として捉えられるような意識を教員が共有できるようにすることが重要である。

主権者及び消費者の育成に係る指導の充実に関する実践研究
令和6年度実施報告(実践校における実践内容の詳細)

団体名: 国立大学法人筑波大学

1. 類型

【類型 I ①】主権者に必要な資質・能力の育成に係る小学校又は中学校における実践
(ア. 社会科における指導)

【類型 I ①】主権者に必要な資質・能力の育成に係る小学校又は中学校における実践
(イ. 特別活動における指導)

2. 実践校名

筑波大学附属中学校

3. 実践校における令和6年度の実践内容

(1) 社会科の実践内容～仮想政党づくりと仮想飯田市(長野県)長模擬選挙の実施

総合学習のコース選択者 28 名が約 10 項目の政策テーマについての個々の賛否の集計情報をもとに、考え方が近い生徒が集まって仮想政党をつくり、党の公約等を作成した。また、リニア新幹線が開通すると交通の便がよくなる長野県飯田市の未来構想等を調べ、全員が立候補者になるつもりで模擬選挙のための選挙公報を作成し、1つのクラスでは1月の筑波小中高大社会科授業研究会で演説を行い、参加者に投票してもらって、その後、選挙結果の分析を行った。

【単元名】 地方自治と私たち(C 私たちと政治 (2) 民主政治と政治参加)

～「仮想自治体選挙戦」から社会参画の意義を学ぼう～

【単元目標】 社会課題の解決に向けて、現状や制度等を理解して多面的・多角的に考察、構想し、協働的な追究を通して社会参画の意欲を高める。

時間	単元の指導計画	
	社会科(公民的分野)	関連付けた他教科等
1	地方自治と地方公共団体 ～分権と地域活性化	特活:生徒会総括
2	地方公共団体のしくみと政治参加 ～様々な条例	地理:日本の諸地域学習
3	地方財政の現状と課題 ～持続可能な財政とは	特活:生徒会予算・決算

4	私たちと政治参加 ～投票率を上げるには	政治家による講演会
5	仮想自治体選挙戦① ～仮想政党との討論	総合: 仮想政党の構想
6	仮想自治体選挙戦② ～立候補者になろう	総合: 仮想政党のマニフェストづくり
7	仮想自治体選挙戦③ ～投票と結果の考察・ 政策実現への準備	他校生の投票・意見交換 政治家や政治ジャーナリストからの 指導・助言
8	仮想自治体の議会体験 ～法案の審議と議決	特活: 自治委員会

色付きセルの单元について、以下に記載する。

【第7時の概要】

- 仮想自治体首長選挙の立候補者の演説, 仮想政党等からの応援演説
- 個人端末のアンケート機能を活用した投票
- 投票結果と投票理由の共有・考察とふり返り

【指導上の工夫】

- ① 社会的事象を自分事として捉え考えさせる教育活動
 - 仮想政党への加入, 立候補, 模擬選挙などを通して「選挙戦」を体験。
 - 衆議院議員や地方議会議員との対話の内容をふり返りつつの投票行動。
 - 衆議院議員総選挙の各政党のマニフェストを分析, 政策立案の参考に。
- ② 社会科(公民科)と他教科等との連携
 - 昨年の地理的分野で学習した人口減少が進む地域の課題解決を構想。
 - 生徒会団体と実社会の政府・自治体の行政組織の役割の関連を考察。
 - 総合学習の社会コース参加者による綿密な調査・広報活動が役立った。
- ③ 意見交換用アプリを活用し, 参観者等による投票を実施, 多様な意見を共有。

【单元評価】

- 民主政治の推進と公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察, 構想し, 表現することができた。(思判表)
- 民主政治と政治参加について, よりよい社会の実現を視野に, 現代社会に見られる課題の解決に向けて, 主体的に関わろうとしていた。(主学態)

【成果や効果】

仮想自治体を生徒が2学年の地理的分野で学習した人口減少が進んでいる地域としたため, 移住支援等の活動に携わる方への当時のインタビューの記録が参考になった。現職の与党と野党の政治家だけでなく, 議員としての活動経験があるものの選挙に落選した方の講演内容にふれることで, 選挙の厳しさや政治活動の責任の重さが実感できた。その上で実施した模擬的な選挙活動, 投票行動を通して「選挙で投票しただけでは有権者の責任を果たしたことはない」ことに生徒が気づくことができた。

【課題】

生徒自身も述べているが、有効性の高い政策の実現には、財源が必要となる。人口減少が激しい地域では、財源の確保がますます厳しくなることが予想されるため、公約の実現が困難な政治家への信頼はどのように高めることができるのかが課題とされた。選挙の投票率を高くするための提案の一つにインターネットの利用が考えられるが、「気軽にできる投票」と、紙に書かれた候補者名を読み上げる厳粛な開票作業とのギャップに戸惑う生徒が多かった。簡便かつ重みのある選挙の方法とは何かが課題となった。また、十分な審議を行うためには時間的制約があることが課題であり、ICTの利用をより高度に進める必要があることがわかった。

(2) 特別活動の実践内容～異学年交流による運動会のふり返り

運動会は何を目指すべき行事なのか、1年生と3年生が改めて議論する活動を行い、学級ごとに運動会の意味を捉え直す活動を行った。ふり返りの視点は、「チームとして課題を共有し、解決に向けてどのように話し合っ合意形成を図り、競技等に主体的に取り組めたか」「新種目の導入・実施の合意形成がどのように行われたか」とし、異年齢集団の協働によって運営される運動会の意義を考え、来年度以降もどのような運動会を実施すべきなのか、下級生へのメッセージを考えた。

【内容のまとめ】

学級活動(学級や学校における主体的な学習・生活づくりへの参画)、生徒会活動(自治的な企画・運営)、学校行事

【育成を目指す資質・能力】

学級や学校の生活上の課題を自主的に見だし、課題を解決するための提案を行い、話し合い、多様な意見をふまえ合意形成を図り、実践をふり返って新たな課題に向かうサイクルを繰り返しながら、学校全体の自治的な活動に主体的に参画する力。

時期 時間	一連の活動と他教科との関連	
	内容項目・学習活動	関連付けた他教科等
毎月 1時間	学級活動(1)ア ～学級自治会で課題共有・改善	道徳 全教科
6月 1時間	学校行事(3)・学級活動(1)ウ ～運動会企画検討	道徳
9月 1時間	生徒会活動(座談会) ～制服を考える	技術・家庭科 (家庭分野・衣生活)
10月 1時間	学校行事(3)・生徒会活動(1)ウ ～運動会ふり返り	保健体育科 (保健分野)
11月 2時間	学級活動(1)ア ～主体的に取り組む効果と条件	保健体育科(保健分野) 総合、社会科(公民的分野)

12月 1時間	生徒会活動 ～視覚特別支援学校との交流	道徳
12月 3時間	生徒会活動 ～総括から改めて自治を考察	社会科(公民的分野)

色付きセルの単元について、以下に記載する。

【議題】運動会は何を目指すべき行事なのかを改めて考える

～異年齢集団による交流(*)も通して

【授業の概要】

- チームとして課題を共有し、解決に向けてどのように話し合っ合意形成を図り、競技等に主体的に取り組めたかをふり返る。*
- 新種目の導入・実施の合意形成がどのように行われたかをふり返り、是非を検討する。*
- 異年齢集団の協働によって運営される運動会の意義を考え、来年度以降どのような運動会を実施すべきなのか、下級生へのメッセージを考える。

【指導上の工夫】

- ①学校生活の充実や向上に向けた取組への生徒の参画を促すための取組
 - 生徒会活動の一環で企画・運営される学校行事との関連を図る。
- ②他教科等との連携
 - 保健体育科(保健分野)「心身の機能の発達と心の健康」で学ぶ人間の精神機能(知的機能, 情意機能, 社会性)と自己形成の関係。

【一連の活動における評価】

- 学級や学校生活を改善するための課題を見だし、協働的な活動を通して合意形成を図りながら解決に向けて行動している。(集団や社会の形成者としての思考・判断・表現)
- 生活の改善のための課題解決への見通しを考え、協働的に行動し、ふり返りを重視しながら日常生活を送っている。(主体的に生活や人間関係をよりよくする態度)

【成果や効果】

運動会における新種目(部活動対抗リレー)の導入決定に至るまでの合意形成のプロセスをふり返ることを通して、代表生徒だけでなくすべての生徒が自治的な諸活動に取り組むことにどのような効果があるのかを改めて生徒自身が問い直し、学級活動や生徒会活動、学校行事を生徒が主体として運営していく自覚や意欲をより高めることができた。生徒会活動や学校行事の成果は、学校全体で生徒が様々な役割を分担し、その責務を担うことで得られているのだと生徒たちが実感し、自らの言葉で表現することによって、健全な民主主義の発達に寄与する基礎を育てることができたと考えられる。

【課題】

生徒が相互の責任意識を重視し、生活の質を改善し向上させるためには、他者と協働し合意形成が必要な機会をさらに増やす必要がある。